

2024年度九州体育・保健体育ネットワーク研究会 ファイナル in 福岡

多様なスポーツの楽しみ方と豊かなスポーツライフの実現

1 目的

九州各県の体育科・保健体育科教育に関わる小中高の学校関係者、教育委員会関係者、大学関係者によって構成される有志が、新学習指導要領への理解、体育学習や保健学習に関する授業力の向上、教育課程編成等体育科教育の充実に向けて、語り合う機会とし、九州から全国へ実践ベースの情報を発信する。また、全国体育・保健体育ネットワーク研究会の交流を促進する。

2 ファイナル・ラウンド テーマ

部活動の地域展開が進むように、スポーツを取り巻く環境が大きく変わろうとしている。学校教育では、ICT活用の中での個別最適化、協働的な学びなど、体育科・保健体育科においても、学校教育全体の方向性の中での資質・能力育成が図られている。生涯にわたる多様で豊かなスポーツライフの育成視点から、スポーツ推進に果たす学校の役割、資質・能力の柱を全教科で目指す学校教育全体の中での体育科・保健体育科の役割について検討していく。

3 主催／共催／後援

〔主催〕九州体育・保健体育ネットワーク研究会、北海道・東北ネットワーク研究会、北信越ネットワーク研究会、中国・四国ネットワーク研究会、関東・東海・関西ネットワーク研究会

〔共催〕福岡県体育研究所、鹿屋体育大学、熊本大学、福岡教育大学

〔後援〕佐賀大学、宮崎大学、大分県教育委員会、沖縄県教育委員会、鹿児島県教育委員会、熊本県教育委員会、長崎県教育委員会、福岡県教育委員会、宮崎県教育委員会、佐賀県教育委員会

〔協力〕台湾師範大学、韓国中央大学

4 期日

令和7年3月8日(土) 10:00~17:00 (受付:9:30~)
(令和7年3月7日(金) 17:00~19:00 国際プレ交流会)

5 場所

福岡県立スポーツ科学情報センター(アクション福岡)
住所 〒812-0852 福岡市博多区東平尾公園2-1-4 TEL 092-611-1717

6 方式

対面及び Web ハイブリッド(一部配信)

7 内容

9:30-	受付
10:00-11:30	ポスターセッション(研究成果、教材等の展示、発表)
12:30-	開会式
【第1部】	体育学習が目指す資質・能力
12:40-14:00	「小学校で身につけさせたい資質・能力」 塩見 英樹(国立教育政策研究所教育課程調査官 併 スポーツ庁教科調査官) 「中学校、高等学校で身につけさせたい資質・能力」 綱島 毅(国立教育政策研究所教育課程調査官 併 スポーツ庁教科調査官) コーディネーター 石川 泰成(埼玉大学)
14:10-15:20	グループワーク 「多様な楽しみ方に向けた小中高で目指す資質・能力の検討」 高橋 修一(日本女子体育大学)
【第2部】	世界の体育は、どこに向かおうとしているのか?
15:00-15:30	「諸外国の学校体育に学ぶ最前線」 岡出 美則(日本体育大学)
15:30-16:30	シンポジウム 岡出 美則(日本体育大学) Ching-Wei, CHANG(台湾師範大学) 通訳:本多壮太郎(福岡教育大学) 佐藤 豊(桐蔭横浜大学)

- 16:30- 事務連絡
- 16:40- 閉会式
- 18:00- 情報交換会

8 資料代(研究紀要)

2,500円(学生は,1,500円)

※ Web参加の方は,各自お振込みいただいた後,発送いたします。

※ 九州ネットワークの会費については,2024年度会費未納入者のみ徴収します。

9 参加申し込み

下記アドレスを直接アドレスバーに打ち込み,HPへアクセスし送信ください。

なお,2月28日(金)までにお申し込みください。(携帯からのアクセスも可)

ポスター申し込みもこちらからです。※ポスター締切は,2月21日(金)です!

スマホからの参加

申込はこちらから

<https://forms.gle/DppvqQPng7txHt759>

申し込み画面にジャンプします。

問い合わせは,事務局:椿(かこい)<chichicaco@nifs-k.ac.jp>
までお願いします。



10 その他

- ◆ 会終了後,18時より,博多駅近くの「もりもり」で情報交換会を実施します(学生以外)。
会費は5,000円です。ふるってご参加ください。
- ◆ 宿泊については,各自手配をお願いします。(非常に取りにくくなっています。お早目に!!)

11 問合せ/連絡先

事務局:鹿屋体育大学 スポーツ人文・応用社会科学系

担当:椿 ちか子 (0994-46-4971, chichicaco@nifs-k.ac.jp)

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地

TEL/FAX 0994-46-4971

12 会場案内

<バス>

JR博多駅 バスターミナル14番乗り場から

37, 39, 39-Bのバス・約20分

(月隈団地経由)(アクション福岡前下車)

福岡空港 地下鉄4番出口 福岡空港前バス停から37, 38, 39のバス……約7分

<車>

JR博多駅から……約20分

都市高速道路利用の場合

福岡方面から:月隈ランプ出口を降りて……約6分

太宰府方面から:金の隈ランプ出口を降りて……約9分



【ポスターセッション 申込み方法】

※ **ポスター締切は、2月21日(金)です!**
ポスター原稿を事務局:梅(かこい)chichicaco@nifs-k.ac.jp までお送りください。

エクセル、
ワード、
PPTでA4

＜ポスター作成イメージ＞

全国の中学校ダンス授業の指導状況調査及びダンス授業教材の開発・普及
 ～令和2年度スポーツ庁武道等指導充実・資質向上支援事業「ダンス指導成果の検証」調査より～

梅ちか子¹⁾、佐藤豊²⁾、高橋修一³⁾、石川泰成⁴⁾、金高宏文¹⁾、浜田幸史¹⁾、山崎美子⁵⁾、山崎朱音⁶⁾、小松忠理子⁸⁾、田巻以津香⁹⁾、萩原香織¹⁾、高岡綾子¹⁾、高岡瑞季¹⁾、岩佐知美¹⁰⁾

1) 鹿屋体育大学 2) 桐蔭横浜大学 3) 日本女子体育大学 4) 埼玉大学 5) 新潟大学 6) 静岡大学
 7) 長崎大学 8) 鹿児島女子短期大学 9) 東海大学 10) 高槻市教育委員会 11) 高槻市立川西中学校

タイトルを
お願いします

発表者の
所属、氏名等

＜背景及び目的＞
 令和元年度のダンス授業の指導状況調査では、中学校の保健体育科教員の多くが、ダンス授業の指導内容や指導方法を本来的な指導方法や教材について学ぶ環境や情報提供ツールの整備が必要であることが明らかとなった。本調査では、多角的な観点から指導の成果と課題を検証すると共に、「知識」と「技能」を関連付けた指導実践及び教材の開発を促し、学習指導要領を踏まえた目指すべき授業の在り方を提案することを目的とした。

＜方法①＞
 調査対象は、全国の中学校の保健体育科教員を対象とした。調査項目は、ダンスの「技能」、「態度」、「知識」の観点から、ダンス授業における指導方法、指導内容、教材の活用状況、多角的な観点から調査した。結果をまとめた上で、指導の課題や解決策を検討した。また、本調査を行うにあたって、事務局の承認を得た。

＜方法②＞
 ダンスの技能の要素をまとめた教材及び学習指導要領に基づいた単元計画を作成し、具体的な指導に関する動画素材と共にホームページ上で公開した。それらの教材や指導法等を基に、教員対象の研修会や各中学校で実際にダンス授業を行い、成果と課題を検証した。

＜結果①＞
 有効回答件数は、1484名であった。

ダンスを踊ることは得意か、ダンス授業の指導に対する不安、ダンス授業の指導に不安を感じる理由(複数回答)のグラフが示されている。

中学校でダンス領域が完全必修となっており、約8年となるが、依然として、ダンスを踊ること自体に苦手意識を持っている教員が多く、ダンス授業の指導に対する不安も8割を超える教員が「ある」と答えていた。その指導に不安を感じる理由も多岐に渡り、自由記述においても上記の項目に関連した回答が非常に多く、未だ中学校現場の教員の不安は解消されていない現状が明らかとなった。

採用している教材(複数回答)のグラフが示されている。

ダンス授業のクラス編成、活用している教材(複数回答)のグラフが示されている。

ダンス授業のクラス編成は、男女共習での実施が60%が留まり、未だ男女共習授業に対して抵抗がある教員が存在する可能性が示唆された。また、視聴覚教材を活用して授業している教員が多く、自由記述においても動画教材についての要望が多数見られた。しかしながら、「振付動画」を希望する教員も多く、視聴覚教材の活用頻度が高いことと何らかの関連性がある可能性が考えられた。

制作ダンスで指導した内容、現代的なリズムのダンスで指導した内容のグラフが示されている。

「制作ダンス」は、「即興的に表現する」の実施率が低く、学年を問わず、「制作ダンス」の指導における重要課題であることが示唆された。「現代的なリズムのダンス」についても、「振付のあるダンスを踊る」活動が多く実施され、「リズムに乗り自由に踊る」は最も少ない結果となった。教員側のダンス授業に係る先入観を取り払い、学習指導要領の内容に即した指導方法や教材を教員に提供する必要がありますと示唆された。

＜結果②＞
 平成29年告示の学習指導要領解説の例示に対応させた、中学校段階での技能評価観点構造図を作成する必要があると考えた。ワーキンググループや有識者会議のメンバーを中心に議論を重ね、中学校第1学年及び第2学年、中学校第3学年別の「技能評価観点構造図」を作成させた。

中学校第1学年及び第2学年、中学校第3学年別の「技能評価観点構造図」の図表が示されている。

平成29年告示の学習指導要領を基に、中学校第1学年及び第2学年において、各8時間という授業時間設定で、第1学年時に「現代的なリズムのダンス」、第2学年で「制作ダンス」を実施すると仮定し、単元構造図を簡易化したものを作成し、授業づくりのベースとして示した。その後、作成した単元計画をもとに、それぞれの時間を実施する具体的な指導方法や教材を検討した。

中学校第1学年及び第2学年簡易単元構造図と、動画素材サンプル(抜粋)の図表が示されている。

平成29年告示の学習指導要領を基に、中学校第1学年及び第2学年において、各8時間という授業時間設定で、第1学年時に「現代的なリズムのダンス」、第2学年で「制作ダンス」を実施すると仮定し、単元構造図を簡易化したものを作成し、授業づくりのベースとして示した。その後、作成した単元計画をもとに、それぞれの時間を実施する具体的な指導方法や教材を検討した。

教員対象ダンス研修会における実践
 中学校における実践
 研修後のアンケートの結果、「技能評価観点構造図」については、全教員が、「知識」(わかる)と「技能」(できる)を繋ぐ、ダンスの指導や評価をする上で役立つと回答し、一定の評価を得られたと考えられた。ホームページの動画教材の提供についても好評であり、研修で行った内容の復習としても活用できるような促すことも有効である可能性が示唆された。中学校において実施率の高い「現代的なリズムのダンス」については、本事業で開発した指導方法・教材を中学校に提供した。学習指導要領をしっかりと読み込み、理解することが重要ではあるが、ダンスを専門としない教員にとっては、イメージが容易でない表現もあるため、今回のように動画教材を作成し、提供することは現職教員へのサポート方法として選んでいたのではないかと考えられた。

作成資料、指導案等の
提供も可能です

＜本事業の成果＞ 全国の中学校でのダンス授業の実態について、アンケート調査から把握することができた。ダンス授業の実態に即した指導方法や教材を開発することができた。また、「制作ダンス」や「現代的なリズムのダンス」の指導について、指導内容に偏りがなく、教員側のダンス授業に係る先入観を取り払い、学習指導要領の内容に即した指導方法や教材をホームページの充実を図り、調査結果及び成果事例の取組のみならず、ダンスの指導法を示した動画教材の作成も進められた。また、制作ダンスや現代的なリズムのダンスの指導法について動画素材を提供することや、学習指導要領の例を示すことは、ダンス授業のイメージが掴みやすく、その指導法や教材をベースとして、それぞれの学